

対象校No. 648

注4

学校コード F115310105113

注3

設置年度

令和

6年度

認可

計画の区分： 学部の設置

注1

注2

新潟医療福祉大学

心理・福祉学部

心理健康学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人新潟総合学園

令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名

法人事務局 企画部

職名・氏名

カゴシマ ヨウキ
神子島 有貴

電話番号

025-257-4467

(夜間)

e-mail

kikaku@nuhw.ac.jp

目次

心理・福祉学部

<心理健康学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	8
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	43
7. その他全般的事項	44

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人新潟総合学園

(2) 大学名

新潟医療福祉大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒950-3198
新潟県新潟市北区島見町1398番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イケダ ヒロム) 池田 弘 (平成13年4月)		
学長	(ニシザワ マサトヨ) 西澤 正豊 (令和2年4月)		
学部長	(ヤマモト ユウジ) 山本 裕二 (令和6年4月)		
学科長等	(ヤマモト ユウジ) 山本 裕二 (令和6年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)
令和6年度に報告する内容 → (6)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
心理・福祉学部 心理健康学科 学士 (心理学)	保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。) 文学関係	4 年	80 人	2年次 人 3年次 人 4年次 人	320 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []				
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	200 (0) [0]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	190 (0) [0]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	176 (0) [0]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	80 (0) [0]			
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、()書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	80 [0] 0	- [-] (-)	
2年次			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3年次					- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
4年次							- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	80 [0] (0)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	80 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{80} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<心理・福祉学部心理健康学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎 教養 科目 群	基礎ゼミ	1前	1			5	2	1	4			
	情報処理Ⅰ	1前	1									1
	情報処理Ⅱ	1後	1									1
	情報処理Ⅲ	2前	1									1
	英語Ⅰ	1前	1									1
	英語Ⅱ	1後	1									1
	アカデミック英語Ⅰ	2・3・4前	1									1
	アカデミック英語Ⅱ	2・3・4後	1									1
	アカデミック英語Ⅲ	2・3・4後	1									1
	韓国語Ⅰ	1・2後	1									1
	中国語Ⅰ	1・2後	1									1
	スペイン語Ⅰ	1・2後	1									1
	ドイツ語Ⅰ	1・2後	1									1
	韓国語Ⅱ	2・3前	1									1
	中国語Ⅱ	2・3前	1									1
	スペイン語Ⅱ	2・3前	1									1
	ドイツ語Ⅱ	2・3前	1									1
	日本語表現法Ⅰ	1後	1						1			
	日本語表現法Ⅱ	1後	1						1			
	スポーツ・健康	1前	1									1
	スポーツ・実践	2・3・4前・後	1									1
	哲学	1前	1									1
	倫理学	1後	1									1
	ジェンダー論	1前	1									1
	科学論	1後	1									1
	情報科学	1後	1									1
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1後	1									1
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2前	1									1
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2後	1									1
	研究プロジェクト演習Ⅳ	3前	1									1
	研究プロジェクト演習Ⅴ	3後	1									1
	研究プロジェクト演習Ⅵ	4前	1									1
小計(32科目)	-	-	6	26	0	5	2	1	4	0	11	
保健 医療 福祉 教養 科目 群	ボランティアの世界	1前	1									1
	コミュニケーション学入門	1前	1									1
	対人コミュニケーション論	1後	1									1
	心理学の世界	1後	1			1						1
	人間を知る	1前	1									1
	命の倫理	1後	1									1
	QOLの世界	1後	1									1
	こどもの世界	1後	1									1
	アスリートの世界	1前	1									1
	臨床医の世界	1後	1									1
	加齢と身体	1後	1									3
	食を楽しむ	1前	1									5
	眼の神秘	1前	1									1
	義肢装具の世界	1後	1									5
	新潟学	1後	1									1
	国際保健の世界	1後	1									3
	国民の生活と健康を支える仕組み	1前	1									1
	現代社会と経済	1前	1									1
	法学Ⅰ	1後	1									1
	法学Ⅱ	1後	1									1
	臨床の哲学	1前	1									1
	臨床技術の世界	1前	1									6
	留学の魅力	1前	1									1
	シティズンシップ教育入門	1後	1									7
	放射線の基礎と人体への影響	1前	1									1
	新潟水俣病の理解	1前	1									1
	統計入門	1後	1									1
	一次救命処置法	1前	1									1
	東洋医学的養生	1前	1									1
	自然人類学概論	1後	1									1
	データサイエンス概論	1後	1									1
	比較認知科学の世界	1前	1				1					1
	アカデミック・ライティング	1後	1				1					1
小計(33科目)	-	-	0	33	0	3	0	0	0	0	0	23
保健 医療 福祉 連携 科目 群	連携基礎ゼミ	2後	1			5	2	1	4			1
	チームアプローチ入門	1後	1									1
	保健医療福祉連携学	2・3前	1									1
	地域連携学	3前	1									1
	連携総合ゼミ	3後・4前	1									1
	社会連携実践演習Ⅰ	1・2・3・4前	1									2
	社会連携実践演習Ⅱ	1・2・3・4後	1									2
小計(7科目)	-	-	1	6	0	5	2	1	4	0	3	

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎 教養 科目 群	基礎ゼミ	1前	1			5	2	1	4			
	情報処理Ⅰ	1前	1									1
	情報処理Ⅱ	1後	1									1
	情報処理Ⅲ	2前	1									1
	英語Ⅰ	1前	1									1
	英語Ⅱ	1後	1									1
	アカデミック英語Ⅰ	2・3・4前	1									1
	アカデミック英語Ⅱ	2・3・4後	1									1
	アカデミック英語Ⅲ	2・3・4後	1									1
	韓国語Ⅰ	1・2後	1									1
	中国語Ⅰ	1・2後	1									1
	スペイン語Ⅰ	1・2後	1									1
	ドイツ語Ⅰ	1・2後	1									1
	韓国語Ⅱ	2・3前	1									1
	中国語Ⅱ	2・3前	1									1
	スペイン語Ⅱ	2・3前	1									1
	ドイツ語Ⅱ	2・3前	1									1
	日本語表現法Ⅰ	1後	1								1	
	日本語表現法Ⅱ	1後	1								1	
	スポーツ・健康	1後	1									1
	スポーツ・実践	2・3・4前・後	1									1
	哲学	1前	1									1
	倫理学	1後	1									1
	ジェンダー論	1前	1									1
	科学論	1後	1									1
	情報科学	1後	1									1
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1後	1									1
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2前	1									1
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2後	1									1
	研究プロジェクト演習Ⅳ	3前	1									1
	研究プロジェクト演習Ⅴ	3後	1									1
	研究プロジェクト演習Ⅵ	4前	1									1
小計(32科目)	-	-	6	26	0	5	2	1	4	0	11	
保健 医療 福祉 教養 科目 群	ボランティアの世界	1前	1									1
	コミュニケーション学入門	1前	1									1
	対人コミュニケーション論	1後	1									1
	心理学の世界	1後	1			1						1
	人間を知る	1前	1									1
	命の倫理	1後	1									1
	QOLの世界	1後	1									1
	こどもの世界	1後	1									1
	アスリートの世界	1前	1									1
	臨床医の世界	1後	1									1
	加齢と身体	1後	1									3
	食を楽しむ	1前	1									5
	眼の神秘	1前	1									1
	義肢装具の世界	1後	1									5
	新潟学	1後	1									1
	国際保健の世界	1後	1									3
	国民の生活と健康を支える仕組み	1前	1									1
	現代社会と経済	1前	1									1
	法学Ⅰ	1後	1									1
	法学Ⅱ	1後	1									1
	臨床の哲学	1前	1									1
	臨床技術の世界	1前	1									6
	留学の魅力	1前	1									1
	シティズンシップ教育入門	1後	1									7
	放射線の基礎と人体への影響	1前	1									1
	新潟水俣病の理解	1前	1									1
	統計入門	1後	1									1
	一次救命処置法	1前	1									1
	東洋医学的養生	1前	1									1
	自然人類学概論	1後	1									1
	データサイエンス概論	1後	1									1
	比較認知科学の世界	1前	1				1					1
	アカデミック・ライティング	1後	1				1					1
小計(32科目)	-	-	0	33	0	3	0	0	0	0	0	48
保健 医療 福祉 連携 科目 群	連携基礎ゼミ	2後	1			5	2	1	4			1
	チームアプローチ入門	1後	1									1
	保健医療福祉連携学	2・3前	1</									

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度】(旧)→【令和5年度】(旧)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和6年度】

〈基礎教養科目群〉

- ・ 授業運営上の都合により、「スポーツ・健康」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。

〈保健医療福祉教養科目群〉

- ・ 科目担当者の配置見直しにより、「加齢と身体」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・ 科目担当者の配置見直しにより、「食を楽しむ」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任5」に変更。
- ・ 科目担当者の配置見直しにより、「義肢装具の世界」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任5」に変更。
- ・ 科目担当者の配置見直しにより、「国際保健の世界」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・ 科目担当者の配置見直しにより、「臨床技術の世界」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任6」に変更。
- ・ 科目担当者の配置見直しにより、「シティズンシップ教育入門」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任7」に変更。

〈保健医療福祉連携科目群〉

- ・ 科目担当者の配置見直しにより、「社会連携実践演習Ⅰ」「社会連携実践演習Ⅱ」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。

〈専門専攻科目群〉

- ・ 公認心理師受験資格取得対応科目の科目名称見直しにより、「感覚・知覚心理学」から「知覚・認知心理学(感覚・知覚心理学)」に科目名称変更。令和5年12月AC教員審査済み。
- ・ 公認心理師受験資格取得対応科目の科目名称見直しにより、「学習心理学」から「学習・言語心理学(学習心理学)」に科目名称変更。令和5年12月AC教員審査済み。
- ・ 公認心理師受験資格取得対応科目の科目名称見直しにより、「神経心理学」から「神経・生理心理学Ⅰ(神経心理学)」に科目名称変更。令和5年12月AC教員審査済み。
- ・ 公認心理師受験資格取得対応科目の科目名称見直しにより、「進化・生理心理学」から「神経・生理心理学Ⅱ(生理心理学)」に科目名称変更。令和5年12月AC教員審査済み。
- ・ 公認心理師受験資格取得対応科目の科目名称見直しにより、「福祉・家族心理学」から「社会・集団・家族心理学Ⅲ(家族心理学)」に分割。令和5年12月AC教員審査済み。
- ・ 公認心理師受験資格取得対応科目の科目名称見直しにより、「発達と障害児の心理」から「障害者・障害児心理学Ⅰ(障害児の心理)」に科目名称変更。令和5年12月教員審査済み。
- ・ 公認心理師受験資格取得対応科目の科目名称見直しにより、「障害心理学」から「障害者・障害児心理学Ⅱ(障害者心理学)」に科目名称変更。令和5年12月AC教員審査済み。
- ・ 公認心理師受験資格取得対応科目の科目名称見直しにより、「社会心理学」から「社会・集団・家族心理学Ⅰ(社会心理学)」に科目名称変更。令和5年12月AC教員審査済み。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
16 科目	141 科目	0 科目	157 科目	16 科目 [0]	142 科目 [1]	0 科目 [0]	158 科目 [1]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{157} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	72,947.00㎡	0㎡	0㎡	72,947.00㎡			
	運動場用地	86,887.00㎡	0㎡	0㎡	86,887.00㎡			
	小 計	159,834.00㎡	0㎡	0㎡	159,834.00㎡			
	そ の 他	98,365.00㎡	0㎡	0㎡	98,365.00㎡			
	合 計	258,199.00㎡	0㎡	0㎡	258,199.00㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	57,243.04㎡ (57,243.04 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	57,243.04㎡ (57,243.04 ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	51室	40室	123室	0室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	心理・福祉学部 心理健康学科		9 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]					[うち外国書]
	冊	種	点	点	点			
	心理・福祉学部 心理健康学科	430 [70] (215 [28])	66 [2] (44 [1])	0 [42] (0 [28])	14 (7)	588 (588)	24 (24)	
計	430 [70] (215 [28])	66 [2] (44 [1])	0 [42] (0 [28])	14 (7)	588 (588)	24 (24)		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	2,083.8㎡	394席	105,360冊					
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
	第1体育館 1,709.43㎡ 第2体育館 630.00㎡ 第3体育館 2,630.51㎡ 第4体育館 1,807.38㎡	屋内プール 25 m × 6 コース 硬式野球グラウンド 1 面 テニスコート 4 面 屋内走路 1 棟 屋内野球練習場 1 棟 クラブハウス 1 棟 屋内投てき練習場 1 棟 サッカーグラウンド 1 面 サッカーサブグラウンド 1 面 第2クラブハウス 1 棟 硬式野球サブグラウンド 1 面 本 部 棟 1 棟						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書館には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）含む。
		教員 1 人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	5,000千円	5,000千円	
	共 同 研 究 費 等	2,150千円	5,000千円	設備購入費	160,600千円	3,000千円	3,000千円	
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		1,400千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、雑収入 等						

4 既設大学等の状況

大学の名称	新潟医療福祉大学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考			
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度					
リハビリテーション学部	4	290	-	1,080	-	0.99	-	-	平成30	-				
理学療法学科	4	120	-	480	学士(理学療法)	1.12	-	-	平成30	新潟県新潟市北区島見町1398番地				
作業療法学科	4	50	-	200	学士(作業療法)	0.85	-	-	平成30	同上				
言語聴覚学科	4	40	-	160	学士(言語聴覚)	0.92	-	-	平成30	同上				
義肢装具自立支援学科	4	40	-	160	学士(義肢装具自立支援)	0.91	-	-	平成30	同上				
鍼灸健康学科	4	40	-	80	学士(鍼灸健康)	0.83	-	令和5	平成30	同上	令和5年度開設			
医療技術学部	4	295	-	1,180	-	1.01	-	-	平成13	-				
臨床技術学科	4	100	-	400	学士(臨床技術)	1.01	-	-	平成23	新潟県新潟市北区島見町1398番地				
視機能科学科	4	50	-	200	学士(視機能科学)	0.86	-	-	平成26	同上				
救急救命学科	4	55	-	220	学士(救急救命)	1.06	-	-	平成29	同上				
診療放射線学科	4	90	-	360	学士(診療放射線)	1.06	-	-	平成30	同上				
健康科学部	4	290	3年次5	1,170	-	1.05	-	-	平成19	-				
健康栄養学科	4	40	-	160	学士(健康栄養)	1.05	-	-	平成19	新潟県新潟市北区島見町1398番地				
健康スポーツ学科	4	250	3年次5	1,010	学士(健康スポーツ)	1.05	-	令和3	平成19	同上	令和3年度から入学定員変更(200→250)			
看護学部	4	107	3年次3	434	-	1.05	-	-	平成30	-				
看護学科	4	107	3年次3	434	学士(看護)	1.05	-	-	平成30	新潟県新潟市北区島見町1398番地				
心理・福祉学部	4	200	3年次5	570	-	0.83	-	-	平成13	-				
社会福祉学科	4	120	3年次5	490	学士(社会福祉)	0.81	-	-	平成13	新潟県新潟市北区島見町1398番地				
心理健康学科	4	80	-	80	学士(心理学)	1.00	-	令和6	令和6	同上	令和6年度開設			
医療経営管理学部	4	80	3年次5	330	-	1.09	-	-	平成22	-				
医療情報管理学科	4	80	3年次5	330	学士(医療情報)	1.09	-	-	平成22	新潟県新潟市北区島見町1398番地				
大学全体	4	1,262	3年次18	4,764	-	-	-	-	-	-				

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2) -① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2) -② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
5	2	1	4	12	0	5	2	1	4	12	1
0	0	0	0	0	0						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
5	2	1	4	12	1	5	2	1	4	12	1
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要書済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) -③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65歳（講師以上） 60歳（助教・助手）	2 歳	2 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) 一④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{12}{12} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{2}{12} = \boxed{16.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		(該当なし)					
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		(該当なし)					
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)								
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)			②の合計数 (b)			③の合計数 (c)		
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{\text{ }} = \frac{\#DIV/0!}{\text{ }} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		(該当なし)								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(該当なし)

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
認 可 時 (令和5年)	教育にふさわしい環境確保の観点から、アドミッション・ポリシーを踏まえた適切な入学者選抜の実施に留意しつつ、設置計画における収容定員に見合った学生の確保に努めること。また、入学者数等の状況に応じた収容定員の適切な規模について不断の検討を行うとともに、必要に応じて定員の見直しを図ること。 【認可】 遵守事項	アドミッション・ポリシーに基づいた適切な入学者選抜試験の実施を行い、入学定員80名に対して開設初年度は80名の入学者を確保した。 履行中	今後も継続してアドミッション・ポリシーに基づいた適切な入学者選抜試験の実施を行い、収容定員の充足に向け学生の確保に努める。定員充足率について動向を注視しながら必要に応じて定員の見直し等検討を行う。
設計画履行状況 調査結果	(該当なし)		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5) (6)」と記載してください。
 - 【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<心理・福祉学部 心理健康学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	(該当なし)

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・平成17（2005）年4月に教育開発委員会内の担当部会を分離独立し、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会を設置した。
- ・平成28（2016）年度より、事務局の各部課職員から構成されるSD推進委員会を設置した。
- ・令和元年（2019）年度より、「FD委員会」と「SD推進委員会」が連携する体制を取り、各種セミナーを共催にて企画・開催した。
- ・令和3（2021）年度より、「FD委員会」と、「SD推進委員会」を統合した、「FD・SD推進委員会」へ名称を変更した。また、同委員会内で、「SD推進委員会」の機能を継続して持たせるため、「SD推進ワーキンググループ」を構成し、委員会活動に参画している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・FD・SD推進委員会：各学科専任教員（1名）と事務局教務課職員（2名）から構成され、月1回（年12回）開催している。
- ・SD推進ワーキンググループ：職員のみで構成され、2023年度は月1回（年12回）を開催している。

c 委員会の審議事項等

<FD・SD推進委員会>

- (1) FD・SD推進委員会活動全般の年間計画について
- (2) 新年度新任教員FDの実施内容・スケジュールについて
- (3) 学内外FDについて
- (4) 授業評価について
- (5) 部会活動（FD・SD研修部会、教育研究推進部会、学生支援部会、授業評価部会、グローバル化推進部会）について
- (6) その他

<SD推進ワーキンググループ>

- (1) SD推進ワーキンググループの年間計画について
- (2) 新任職員対象のSD研修について
- (3) 春の職員会、秋の職員会、職員交流会について
- (4) その他

② 実施状況

a 実施内容

<FD・SD共通>

(1) 教職員対象とした活動

- ・FD・SD共催ランチョンセミナー(担当業務や高等教育を取り巻く課題・トピック等の紹介:年9回開催)

<FD>

(1) 教職員を対象とした活動

- ・TOEIC IPテスト(年4回開催)
- ・セミナー「どうする?先生 Part.2 ~学生に診断名を告げられたら~」(メンタルヘルス支援室 / FD・SD推進委員会 共催)
- ・セミナー「シェアかふえ~学生からのヘルプサインを見つけるためのヒント~」(中央教育センター / メンタルヘルス支援室 / 図書館・学習支援委員会 / FD・SD推進委員会 共催)※計8回開催
- ・セミナー「AIを味方にした英語論文作成」(研究・産官学連携推進部会 / FD・SD推進委員会 共催)
- ・セミナー「本学の連携教育の位置づけ~連携基礎ゼミの目的と実例~」
- ・セミナー「大学教育現場における生成AI活用について」
- ・セミナー「院生アンケート結果からみたメディア授業の活用方法」(大学院教育研究環境委員会 / FD・SD推進委員会 共催)
- ・セミナー「本学女子バスケットボール部と新潟アルビレックスBBラビッツとの連携における可能性と課題について」
- ・セミナー「GPAトレンドからみた資格試験の可否」(国家試験・資格試験対策委員会 / 図書館・学習支援委員会 / IR戦略委員会 / FD・SD推進委員会 共催)
- ・セミナー 新潟医療人育成センター 高橋 昌センター長 特別講演「わずかな知識と一歩前に出る勇気 ——心に火をつける心肺蘇生教育 新潟PUSHの挑戦」
- ・セミナー「ITを活用した新しいボランティアの考え方 Be My Eyes でQOL サポート」(ボランティアセンター / 社会連携推進センター / FD・SD推進委員会 共催)

(2) 教員を対象とした活動

- ・新任教員FD(年1回開催)
- ・国際交流委員会共催 春の教員英語研修「英語による教授法」(年1回開催)

(3) 上記の各活動を実施するための部会開催

- ・FD・SD研修部会 令和5(2023)年度 11回開催
- ・教育研究推進部会 令和5(2023)年度 5回開催
- ・学生支援部会 令和5(2023)年度 11回開催
- ・授業評価部会 令和5(2023)年度 11回開催
- ・グローバル化推進部会 令和5(2023)年度 4回開催

(4) 学外FD支援

学外FDの案内があった際、委員会より、ポータルサイト、メール等により周知している。

<SD>

(1) 事務職員を対象とした活動

- ・新任職員研修
- ・春の職員会(各部課の前年度の総括、当年度の目標)
- ・秋の職員会(学内清掃活動)
- ・職員交流会(新任職員 施設見学ツアー)

(2) 教職員を対象とした活動

- ・FD・SD共催ランチョンセミナー(担当業務や高等教育を取り巻く課題・トピック等の紹介:年3回開催)

(3) 上記、各活動を実施するための委員会、SD推進ワーキンググループを開催(月1回)

b 実施方法

<FD>

- ・学内:全教員宛にメール配信により、学内で実施するFD活動開催を周知し、参加を促している。実施後は、参加者アンケートにより、内容等の満足度や所感を記載してもらい、次回の開催に活かしている。
- ・学外:FD・SD推進委員会において、学外からの案内を委員長から委員に周知し、各学科で参加者を募っている。参加した場合、報告書の提出を求め、委員会および合同教授会にて資料報告を行っている。

<SD>

- ・学内:FD・SD推進委員会が実施する活動において、高等教育を取り巻く課題の紹介等、教育研究の維持向上に資するテーマを、全教職員に参加を促している。
- ・学外:実施テーマにそって教職員が参加し、報告書を作成して学内で共有している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

<FD>

・令和5(2023)年度は前年度に引き続きSD活動と連携し教員の他、事務職員も参加した。
その他、メディア授業に関するFD、学生支援のためのFD等を実施し、各教員個人が必要だと考えるテーマのFDに毎回60～80名程度の教員が参加している。

<SD>

・SD活動は事務職員を主体とした内容としつつも、各部課が担当する業務ならびに高等教育を取り巻く課題などの紹介等、教育研究の維持向上に資するテーマについては、関心に応じて毎回、40～60名程度の教員が参加している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・実施された授業評価アンケートについては、ポータルサイトに全集計結果を掲出しており、教員の意欲的な授業改善、学生へのフィードバックに役立てている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

・前期（前半・後半および通期）、後期（前半・後半および通期、通年）に開講される科目について学生が回答し、評価している。2018年度後期からWEB方式へ移行し、ポータルサイト上で実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

・アンケートの集計結果を学生・教職員に学内ポータルサイト内で公開している。また、アンケート集計内容に対する教員からの回答結果もポータルサイト内で公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

(該当なし)

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

コロナ禍での情報化社会の急激な進展、いじめや不登校などの学校現場での諸問題や超高齢化社会の到来、多様性を認めよう共生社会の実現といった社会的な要請、日本海側における人口最大の新潟県の抱える問題とそれに対応するための人材育成に対する地域の要請、さらには本学の特色をより生かすためにも、心理健康学科の設置は不可欠である。そのために心理健康学科では「あたま」「こころ」「からだ」のすべてを学ぶことができるように、基礎心理、臨床心理、運動心理3つの柱で、人間の統合的理解を目指す。これは、進化という観点で「あたま」を理解し、適応・発達という観点で「こころ」を理解し、学習という観点から「からだ」を理解することとなる。

医療・福祉現場だけでなく、一般企業での人事マネジメントやメンタルヘルス、学校教育やスポーツ現場での子どもからスリートまでの心理サポートを可能にする人材の育成が必要とされており、そのための教育研究拠点を設置する。そして国・県や市町村といった行政機関・医療・福祉・教育・スポーツなどの様々な現場で、自ら問題を発見し、解決する力を発揮できる人材育成を行うことによって、地域や社会のニーズにこたえていくため当学科は設置された。

令和6年4月に計12名の専任教員(教授5名、准教授2名、講師1名、助教4名)が着任し、入学生80名を迎え初年度の教育課程開始した。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・令和3(2021)年3月 公表

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を作成し、ホームページに公表した。

<https://www.nuhw.ac.jp/about/pdf/assessment/r2hyoukahoukoku.pdf>

③ 認証評価を受ける計画

・令和9年(2027)年度に評価機関(日本高等教育評価機構)の評価を受けるべく、学内で準備中

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。